

平成30年度 第1回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	平成30年6月2日(土) 14時00分～16時10分
場 所	松戸市立博物館 会議室
出席者	<p>委員 水嶋 淳一          委員 佐藤 祐介          委員 山口 恵理子          委員 岡田 啓峙          委員 谷鹿 栄一          委員 百田 清美          委員 濱島 正士          委員 小島 孝夫</p> <p>(欠席委員)          委員 安蒜 政雄          委員 佐藤 孝之</p> <p>(事務局)          教育長 伊藤 純一          生涯学習部長 平野 昇          博物館館長 望月 幹夫          博物館次長 堤 和子          館長補佐 山田 尚彦          館長補佐 染野 寿郎          主幹(学芸員) 青木 俊也          主査(学芸員) 富沢 達三          主任主事(学芸員) 小林 孝秀          社会教育課 美術館準備室長(学芸員) 田中 典子</p>
議 題	<p>(1) 平成30年度博物館事業概要の説明          (2) 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想について          (3) 市制施行75周年・開館25周年記念 館蔵資料展          「まつどの江戸時代—古文書・絵画・模型からさぐる—」          内覧と評価          (4) その他</p>
経過及び概要	<p>博物館職員紹介          生涯学習部長挨拶          協議会会長挨拶</p>

	議事 教育長挨拶 博物館館長挨拶
公開・非公開	公開（傍聴者 0人）
配布資料	会議次第 平成30年度松戸市立博物館事業概要 館蔵資料展、美術展、特別展、企画展の開催要領 松戸市立博物館「こども歴史博物館」を計画するための考え方 松戸市立博物館 こども歴史博物館 展示プラン図

【 議事 】

(1) 平成30年度博物館事業概要の説明について

事務局から平成30年度博物館年間行事予定について説明した。

(2) 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想について

事務局から「こども歴史博物館」を計画するための考え方、展示プラン図について説明した。

委員A：文化庁の「歴史文化基本構想」は地方公共団体が策定するものであるが、「こども歴史博物館」の計画と内容が重なっている。松戸市の計画と、「歴史文化基本構想」との内容のすり合わせを行い、視野を広げて考えていくといいと思う。

委員B：考え方が具体的になって実現に近づいてきている。計画の中には、主体的に学びを深めるということはあるが、対話的な学びということも、「学習指導要領」で定義しているので入れていただきたい。子ども同士、先人、本、資料、親子、いろいろな「対話」から主体的に考え自分で発見できる子どもを育てることとなる。また、図書閲覧コーナーに子ども向けの本を増やしていただきたい。

会 長：「歴史文化基本構想」は国からの補助が出るのではないかと思う。

委員A：「歴史文化基本構想」の中では、今後の文化財の活用をどうしていくかということも考えていくべきであり、県とも連携してより実現に向け進めていってはいかがか。

委員A：「こども歴史博物館」については、策定内容や助成についても国の基準に則ったものになるため、その内容に合えば市の予算と併せてより効果的に事業が行えるのではないか。

事務局：「こども歴史博物館」の考え方は、松戸の歴史資料を利用し、より深く松戸の歴史を深めるプログラムを用意したものであり、目的が「歴史文化基本構想」と重なっているものがあれば活用していくことも検討する。

- 会 長：今後は、「歴史文化基本構想」とすり合わせし、検討していただきたい。
- 会 長：館蔵資料は、展示に活用されているのは一部であり、大いに活用するべきである。また、松戸市は文化財、文化的景観については保存が十分にできていないと感じている。
- 委員C：子どもたちが、市内の重要な文化財を身近に触れることにより、文化財への大切に思う思いが、文化財保存にも繋がっていくのではないかと。新たなターゲット層の30～40代の大人が、親子の「対話」ができるような施設となってほしい。
- 委員A：「こども歴史博物館」の構想の中で、市内で指定されている文化財を通して、文化財の展示の仕方を変えるなどにより、常設展示とは違った説明ができる。そのような視点も加えていただきたい。
- 会 長：指定された文化財については、どのように守り、保存していくのか、博物館で検討していただきたい。
- 委員B：文化財には、関連する人物もあり、小学生などは歴史上の人物など、昔の暮らしの人々の努力や工夫などを取り上げるなど内容を充実していただきたい。
- 会 長：子どもたちは、偉人伝には大変関心をもって本を読むため、松戸のために努力した人などを取り上げるなどが、郷土の誇りに繋がるので検討してもらいたい。
- 委員D：学校の中での生活目標として、梅雨の時期に部屋の中で行うもので、コマ回し、お手玉、ケン玉など、昔の遊びを取り入れている。
- 委員E：NHKで、人の名前のルーツを放送していたが、子どもたちにも人名などのルーツを知ってもらいたいとおもしろいと思う。
- 事務局：今回の館蔵資料展のチラシのデザインをベースにして、活用するアイデアをお聞かせいただきたい。
- 委員D：地図に小中学校名を入れるなどはどうか。
- 委員B：駅名を入れるなどはどうか。
- 事務局：データはあるので、学校で加工して利用できると思います。
- 事務局：今後、「こども歴史博物館」については、「歴史文化基本構想」を確認したうえで、家族での利用、また松戸市の文化財に対するアプローチを実現できるように具体的に検討します。
- (3) 市制施行75周年・開館25周年記念 館蔵資料展「まつどの江戸時代—古文書・絵画・模型からさぐる—」内覧と評価について
- ※企画展示室へ移動し、館蔵資料展「まつどの江戸時代—古文書・絵画・模型からさぐる—」について、担当学芸員の解説、見学後会議室へ戻り評価。

委員C：自分たちが住んでいる松戸市を知ることができ、生活に密着していてとても楽しむことができた。他で松戸市を特集していることはないので大変良かった。

委員F：関宿から博物館に来るまでの道を照らし合せたりした。また、「こども歴史博物館」の関連になるが、子供向けの表示があればもっと興味が持ちやすいのではないかと思った。

委員E：内容そのものが、常設展示と繋がって一体となっていくべきであり、それが、「こども歴史博物館」であると感じた。

委員A：資料を使って何を伝えるか、つくったから伝わるものではなく、学芸員による伝える威力、努力というものを改めて感じた。

委員B：入口でインパクトのある絵に色も使われており、とても楽しく拝見させていただいた。

委員D：松戸市がよく理解できた。

会 長：松戸は縄文文化があるなかで、近世も松戸は大変興味深い時代でありとても貴重であると感じた。また、展示だけでは全体像が理解しにくいので、今回のように解説があればいいと思う。

#### (4) その他について

事務局から今年度より協議会会議の内容をホームページにて公開することを報告した。